

平成23年仕事納め式訓示

平成23年12月30日

みなさん、平成23年の仕事納めを迎えました。

おかげさまで、この一年間、村井副町長、岩城教育長をはじめ職員のみなさんが、それぞれの立場で、しっかり頑張っていたおかげで、しっかりと町政を進めてくることができました。

あらためて、心から御礼を申し上げる次第でございます。

今年一年を振り返りますと、やはり 3.11・・・

あの三陸沿岸に押し寄せた大津波のことだと思っております。一瞬にして家や車、船までも流され、多くの方々が命を失いました。ご家族を亡くされた人、津波で住む家をなくし、住む場所さえ失ってしまったのであります。

あの大津波が、私たちの礼文島であったなら・・・と思うとぞっとする思いであります。しかし、他人事ではありません。同じことが礼文島で起こらないとは言えないからであります。

私たちは、町民のみなさんの顔がしっかりと見える、温かい役場、暖かな行政でありたいと思います。

今年をあらわす漢字「絆」は、私たちにそうあってほしいと問いかけているように私には思えます。

どうすれば安全に安心して礼文島で元気に暮らしていけるのか？

私たちは、町民のみなさんの幸せのために、しっかりと行政を進めなければなりません。

そしてそれは、防災だけの問題ではありません。

「どうすれば安全に安心して礼文島で元気に暮らしていけるのか？」 「そのために私たちは何をすればいいのか？」福祉も教育も産業も建設も、診療所も衛生センターも、役場のすべての仕事、すべての部署、すべての職員にこのことを考えていただきたいと思っています。

さて、今年の水産水揚げ動向では、昨年を上回ることが確実とされ、30億円に達する可能性も含んでおりますが、沿岸漁業、特にコンブの不漁が大きく影響しています。

観光も9年連続の入込減少となっており、来年度の税収も引き続き不安を感じているところでございます。

国の予算も、財源不足から借金に頼る状況で、6年ぶりに前年度当初予算を下回る90兆3339億円となっていますが、東日本大震災の復興費と年金財源は特別会計などで処理したために見かけ上は減額となっていますが、実質的には総額96兆円を超える過去最大規模の予算となっております。

この結果、国と地方の借金も合わせて937兆円となり、財政の硬直化がさらに進むこととなります。

加えて景気の先行き不透明感、デフレ現象と超円高という厳しい経済情勢の真ただ中で、私達は、また新しい年を迎えるわけであります。

したがって、職員皆さんの知恵と工夫が求められているということをあらためて自覚していただきたいと思えます。

いつも云う言葉であります、皆さんは役場職員として、常に厳しい環境の中に置かれています。そして、地域の活性化のため、町民福祉の向上のためなどなど、多くの課題を抱えながらも、同時に、町民の皆さんから大きな期待も背負って仕事をしているのであります。

しかし、それを、決して重荷としてとらえるのではなく、できれば自分には肯定的に、「よく頑張っているね」と自分で自分をほめていただきたいのであります。また、笑顔を意識すると行動も前向きになりやすいと云われております。

皆さんには「ふるさと礼文町を日本一元気な町にするんだ!」そんな思いとやさしさを心に置いて、困難があっても常に笑顔でそれを跳び越えられる日本一元気な職員になってほしいと願っているところでございます。

結びになりますが、いよいよ、明日から年末年始の休みに入ります。

普段はなかなかできない大切なご家族との「絆」を深めるお正月にしていいただきたい、そして、きたる新しい年に向かって、しっかりと鋭気を養なっていただいて、仕事始めにはまた、元気にお会いすることを楽しみにしたいと思います。一年間、本当にありがとうございました。